



# 深志とクロ



1956年



1959年



1960年



1961年



1962年



1963年



1964年



1965年



1966年



1967年



1968年



1969年



1970年

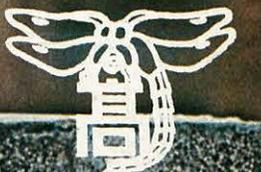


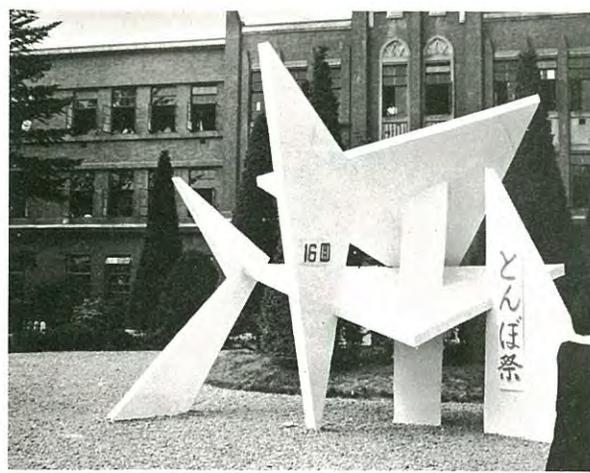
1971年



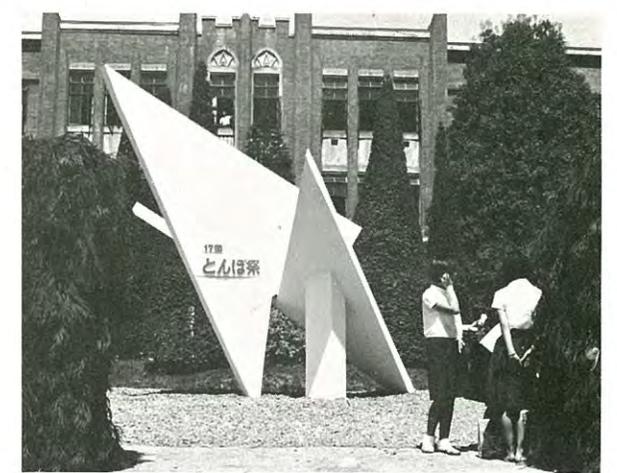
1972年

とんぼ祭記念バッジ (回の数字にトンボか山を加えたデザイン)





1963年9月 初のトンボ祭モニュメント



1964年9月



パパの学校のクロだよ！



体力測定



'60年までのネコ屋敷はクロの仔を生む巣に変わった。(化学教室床下)

春休みにクロが仔を4匹生んだ。黒が3匹、赤が1匹、みんなそれぞれもらわれていった。仔をふところに抱いて授業を受けてる人は誰？(1964年3月 OG 添え書より)



「黒公」活躍す  
深志生のマスコットクロが仮装に出場、人気を集めていた。この黒公、一年ほど前学校に迷いこんだもので、一年五組の西郷隆盛のお供をして一位へのひと役をかった。(深志高校新聞1961年9月26日号より)



'63年度博覧会より



おじさんたちのお蔭で定食にありつけた



90周年記念式典の日に  
(1966年11月4日)

1966年9月 燈籠コンクール



1966年8月 おとなしくて、かきこいクロだが暑さには弱い。誰かがプールに投げ込んだ。



餌を見せると眼を輝かし太い尾を振る。吠えるのは子供と怪しい人の時だけで、めったに吠えなかった。

1967年



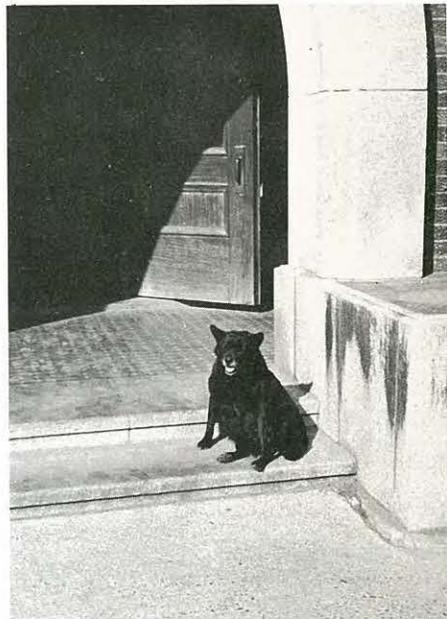


1968年



1969年

だれかがクロを職員住所録に載せた。じゃらすとすぐに仰向けに寝ころび、食べ物がぜいたくになってきた。



クロはよく授業のとき、教室へついできたものだ。クロが入らないうちに戸を締めると外からガリガリやって開けろと催促する。授業が始まると教壇の上におとなしく坐って聞いている。

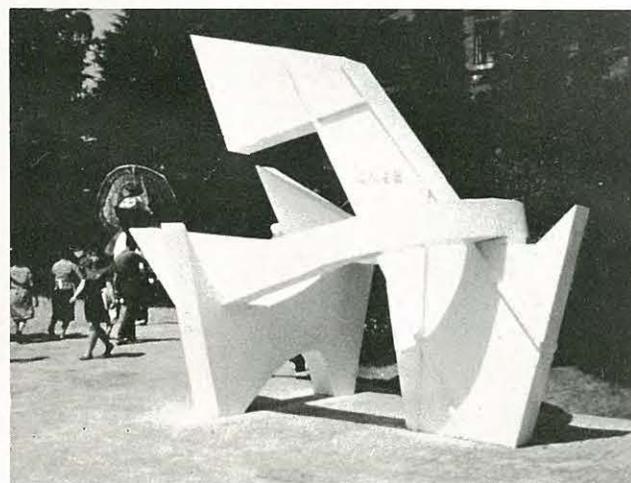
1970年



10月4日 SBCテレビの「ズームイン信州」に30分番組で出演した(とんぼ祭頃撮影)その後、朝日新聞の全国版をはじめマスコミに騒がれるようになった。夏バテ以降のクロは疲れ気味だった。



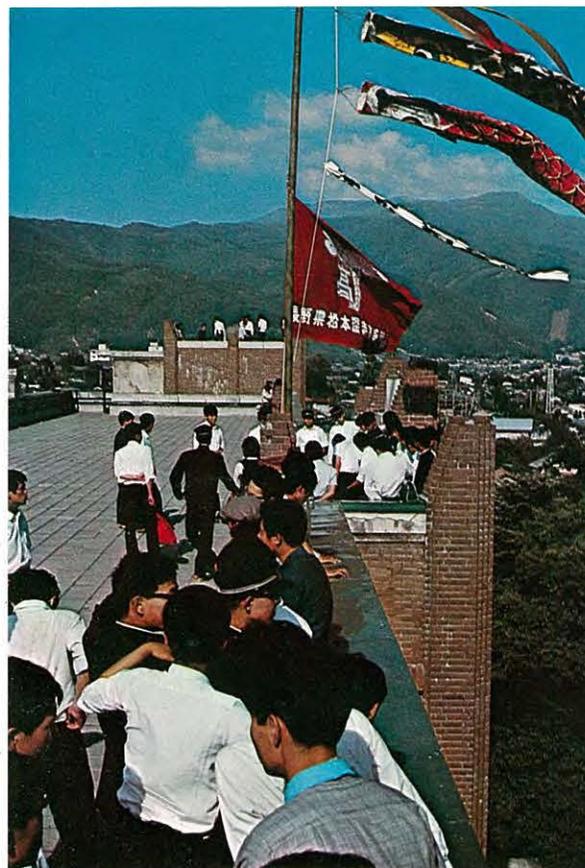
甘えるクロ(12月)





春の昼休み

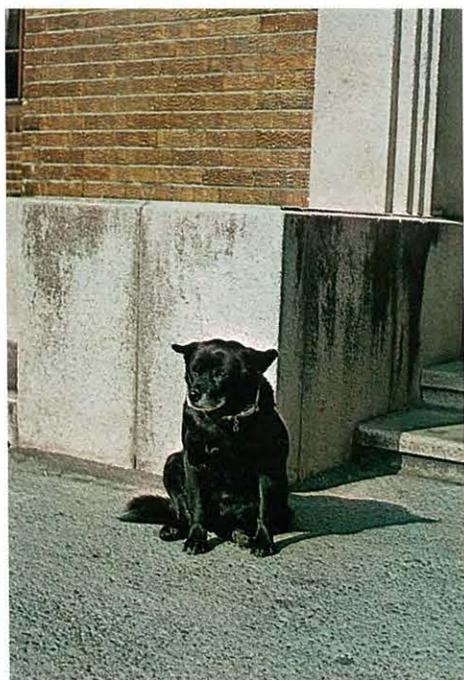
1972年4月 対面式



糸入りの紙作りはカーテンに変わって手作りだ



とこしえにかわらぬ理想胸に秘め



淡色とりズムをいかした  
1959年のポスター





1971年 事務職員と



おじさん達と

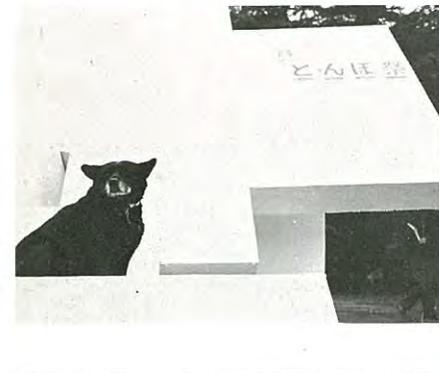


1971年 春



「クロ老いて人に似て来ぬ  
秋の暮」 (筑邨)





1971年9月～12月

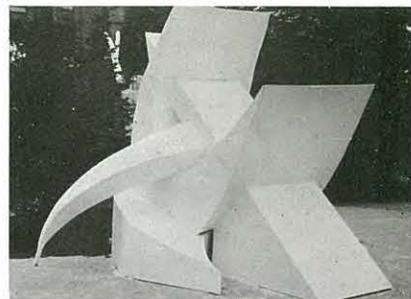
“老犬を一団に教師らみかんむく”  
 (光也-たわむれにより)  
 “会議長く暑しだらりとクロ寝てみて”  
 (筑邨)



“天高し教師の弁当ねだるクロ”(筑邨)  
 前足で器用に人をつついてねだった。  
 好物はひき肉と豚のレバーと甘いもの  
 だった。

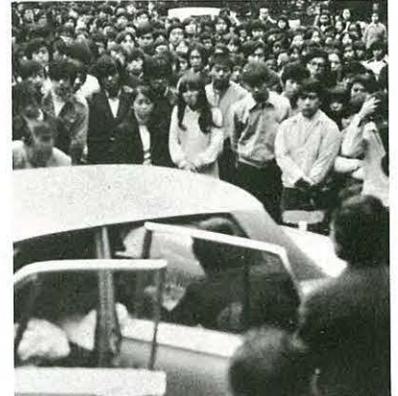


「朝ざくら尾を振るクロに迎えられ」(筑邨)

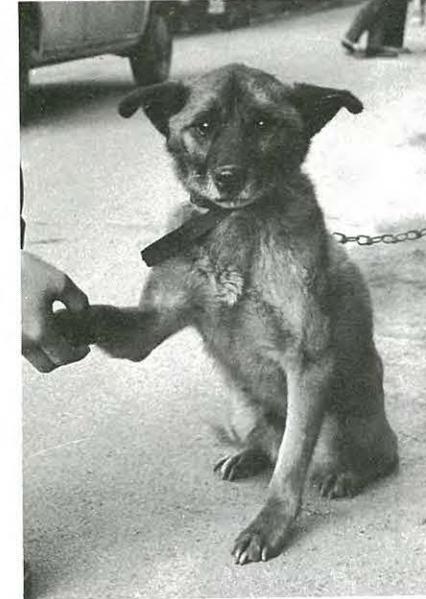


第25回とんぼ祭

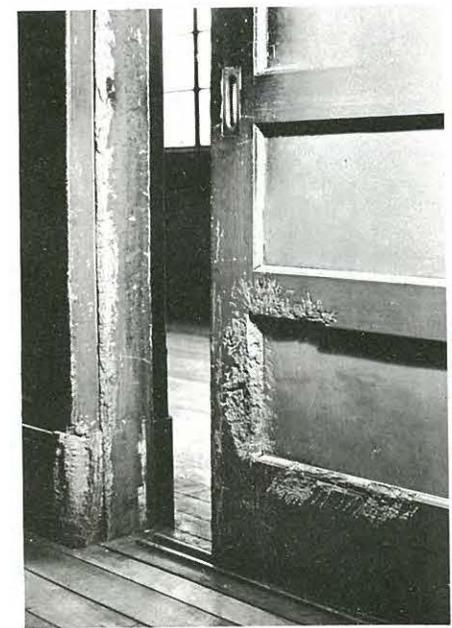
1972年  
6月に重い病気をしたが、校友の  
カンパもあって投薬が効き、いっ  
たん治った。とんぼ祭頃には校内  
に入った猫を猛スピードで追い廻  
していた。



1972年11月30日 クロは老衰に悪性腫瘍が伴って昇天した。  
クロは校歌で見送られた。「先生にも生徒にも可愛がられクロ  
18年をよくぞ生きたれ」(金熊)



クロの仔たち。左より1965年、63年、66年生れ。クロの夫は白い犬だった。



クロの残した瓜跡(生物研究室)  
宿直に付添ったクロは甘いものやネズミをあさって  
いて部屋に閉じ込められることがよくあった。

1973年3月8日 NHK総合テレビ「スポッ  
トライト」に「校友クロ」が30分番組で放映  
された。

### 深志とクロ

1973年3月15日 発行  
非売品(実費頒価200円)  
発行者 長野県松本深志高等学校  
          クロの委員会  
編集者 大貫 悌二・柴野 武夫  
          藤岡 改造・望月 義宏  
印刷所 松本精美堂印刷株式会社